

荒谷 雄幸 様 (防災リーダーコース平成29年修了)

メッセージ -----

受講生の皆様、元気にしていらっしゃいますか。二戸消防本部、荒谷です。
防災リーダーコースを受講したことで、たくさんの「子供のような気持ちを持った、それでいて深い味わいを醸し出す大人」の方と知り合うことができたことが一番の財産となっています。未だにメールやら電話で情報交換ができているというのが凄いことと思っています。自分の中では、受講により東日本大震災、岩泉台風10号の現場派遣で見て聴いて感じたことと、防災リーダー講習での学びをリンクさせて、俯瞰的に見られるようになったことが良かったものと思っています。

○受講によって自分のなかで変わったこと

何歳になっても、学ぼうという気持ちのある皆様にリスペクトです。自分よりも年上の紳士、淑女のみなさまの経験談を耳にしながら新たな思いをはせることができました。私が学ぶという思いを強くしたことは、消防同期の訓練バディの TSUNAMI での死亡によることが大きかったです。「残念なこのことは、伝えたい」という気持ちが大きいのですが、伝えるための条件として、防災を正しく知ることから始めようと思いました。大学プログラムでの学びによって、自然を正しく敬い正しく畏れる必要を再認識したところです。「自信を持って、話を伝えられる力」がついたと思っております。亡くなったバディが背中を押してくれています。

○受講後、取り組んだこと

早い時期から、地域防災での講演はしていましたが、岩手県教育委員会での「いわての復興教育 いきる・かかわる・そなえる」の学校現場での授業に取り組むことで、教育、福祉、介護、行政など官民連携の防災活動を展開することができました。その流れを後輩職員にも伝えることができました。また、避難所の運営に関することとしては、「男尊女卑(死語)」の傾向があるかもしれない当地方において、女性の生活支援、避難支援を正しく導くこととして、2020年度に「岩手県男女共同参画リーダー」研修を終了しました。男女の区別はするが、差別のない避難生活から速やかな復旧に至れるような話ができるようになれば良いと考えています。

○現在、取り組んでいること

4月からは、青森県にあります、「弘前医療福祉大学短期大学部救急救命学科」にて、教員講師となります。救急救命士の資格を生かしながらの教育に関わり、現場経験、防災の知識を若い方に伝えることとなります。また、日本海側にお住まいの方々の「危機

管理意識」が太平洋側、首都、東南海地域の方に比較して低迷している事実があることから、津軽地域のみなさまに、経験をお伝えできたらと考えております。

○おわりに

「全ての答えは現場にある」。これは42年間の消防生活での答えである。

リーダーの皆様のお力添えをいただくこともあると思いますが、そのときにはよろしくお願いいたします。そして、時間を見つけてもう一回、リーダー育成を受講したいものです。
